



「写真の町」東川町長 松岡市郎

東川小学校の建設に向けて

皆さん、新年あけましておめでとうございます。いよいよ政権交代が行われてから新しい年を迎えました。今年はどういう年になるのか大きな期待がある一方で不安もあり、複雑な気持ちで新年を迎えています。

町の人口は横ばいながら、担い手不足などから商店街はシャッター化、農村地域は人口減少し、私たちの町のような非過疎地も過疎地とならん変わるところはありません。

活性化のための新たな投資整備が必要であり、過疎に準ずる形で国の支援が必要となつてきています。

老朽化と耐震化の観点から、今、4年後の開拓120年に向けて、東川小学校の新築を検討しています。現校舎は後世に残したいものです。現在の小学校を中心として周辺10キロメートルから20キロメートル四方に広がる区域には、多くの魅力がたくさんあります。小学校はその魅力をつなぐ中心となる施設であると考

えています。

私たちは「夢」を持ちたいと思います。今は国の支援を求めつつ、いつの日か次代を担う子供たちが活力のある地域を創造してくれると。その子供たちのために、さまざまな「出会い」による感動、貴重な楽しい体験ができる施設づくりをしなければなりません。それが学校です。

東川小学校建設にはそれぞれ思いがあることと思いますが、子供たちのたくましの教育と中心市街地の活性化の

視点から知恵を出し、多くの人々の夢を一つにし、実現に向かつて進めたいと考えております。

私たち職員一同、今年も住民の皆さまが笑顔で輝くことを目指して頑張ることを決意し、皆さまのご多幸を願って年頭のご挨拶とします。



年頭の想い

東川町議会議員 濱辺 啓

平成二十二年が全町民にとって良い年でありますよう祈念し、新年を慶びたいと思います。

平成の元号が使われて早二十一年が過ぎ、二十一世紀も十年を迎えました。「歳月人を待たず」という言葉が身にしみず。

任期最後の年として過ぎにし日々を振り返る時、近隣町村から羨ましがられるような事業を次々と執行させていただいたことに感謝を申し上げます。

このことは町民理解のもと、町理事者、議会と三者一体となつて大団に就いた賜ものとして解釈しております。本当にありがとうございます。

さて今後の十年を展望する時、小学校の建て替えに係る問題、改正農地法に係る問題等、将来の「ひがしかわ」を左右しかねない問題を抱えております。高い次元の判断が求められるものと思われまふ。いつの世も「町がどうなつてもいい」などと考えて議論しているつもりはなくても、

つい自我に陥ってしまうということがあります。自戒も含め大いに議論を重ねていきたいものと考えます。

ここで大事なことは、将来を担う若者を参加させることです。そしてその発言に責任を持たせるといふことではないかと思ひます。

古い詞だが「広く会議を興し、万機公論に決すべし」を心してかかりたいと思つております。

さらに「五箇条の誓文」を紹介するならば「上下心を一にして…」「官武一途庶民に至る迄、各其志を遂げ…」「旧来の陋習を破り…」「知識を世界に求め…」とあります。後段を省略したのは現代に合わないのではないかと思われるからです。しかし前段部分は今でも参考

に出来る文言ではないでしょうか。

「写真の町」を宣言し早二十五年が経過しましたが、先般写真甲子園常連校の神繩真和志高校を訪ね、校長、指導の先生、選手である三人の生徒と懇談をしてみました。写真甲子園に出場してから学校が変わつたと言っていました。さらには父母からも感謝されると聞かされ、胸が熱くなりました。わが町が取り組んできた事業の一つ一つ実を結んできていることに誇りを持ちました。この誇りを町民共有のものとして今後もみんなで頑張つていこうではありませんか。今年一年、皆さまがご健勝でありますことを願ひ年頭のあいさつといたします。

